

キングス・カレッジ・ロンドン 留学報告書

第3号 2017年10月

2017-2018年度グローバル補助金奨学生 中谷菜美



■留学先

キングス・カレッジ・ロンドン
International Child Studies 修士課程

■スponサークラブ

東京六本木ロータリークラブ

■ホストクラブ

エッジウェア・スタンモア
(Edgware and Stanmore)ロータリークラブ

目次

01. 履修内容・学校生活

02. ロータリークラブの方々との日々

03. 重点分野との関わり

ロンドンはこのところまた一段と寒くなり、早くもコートと帽子と手袋が手放せなくなっていました。

少しずつ授業準備にも慣れ、少し余裕を持って課題に取り組めるようになってきましたが、文献を分析的な視点で読むこと、授業で意味ある発言をすることに関してはまだまだ奮闘中です。

10月はロータリーのイベントが多く、ロータリーを通じたつながりも深まった一月でした。10月の活動報告をお届けします。

01. 履修内容・学校生活

子どもが意思を表明する権利

私が履修している子どもの権利に関する授業では、毎週異なるテーマで、子どもの権利の本質について学びを深めています。今月の授業の中でとても印象的だったのは、子どもの権利条約の12条である意思表明権(Rights to be heard)です。

意思表明権とは、子どもは、自分に関わることについて意見を表明する権利があり、その意見は尊重されて意思決定にいかされなければいけないと言うことを示した権利です。この権利の概念について特に考えさせられた点は、①子どもの意見を聞くと言うことは、聞く側が真剣に意見に向き合い、意見を意思決定に生かすことまでを含むこと。②子どもが意見を持てるかどうかは、年齢ではなく一人一人の能力によって判断されるべきで、その能力とは成熟した意見を言えることではなく、その子なりの方法意見を表明できるかで判断されるべきということ。



クリスマスのデコレーションが街のいたるところで始まりました！

③そして、子どもの力にあった方法で意見を引き出す、聞く側の努力が必要なこと。

日本では、子どもの人生に大きな影響を及ぼすこと(例えば両親の離婚、学校選択、児童養護制度の選択)に、子どもの意思が十分反映されていないのでは?と思うことが多く、まだまだこの考え方が浸透していないのではないかと感じました。

エッセイ～アフリカ・イスラム圏での子どもの権利～

今月もエッセイに取り組みました。授業を通して関心を持った「子どもの権利条約のアフリカやイスラム圏の国々での実践状況」をテーマに執筆しました。文化的にどの点が相入れないのか?各地域での子どもの権利に関わる動きはどの程度有効なのか?といった問題意識のもと文献を読み、イスラム国家では、イスラム法が国の制度となっている場合が多く、例えば宗教の選択の権利や、男女平等であることなどがイスラム法に抵触すること、だからこそ子どもの権利の正当性を訴えるだけでは浸透させるのが難しいことなどが明らかになりました。この課題を通して、子どもを守るという目的を異なる文化や宗教の中で共存させていくことの難しさと必要性を一層感じました。私の将来の目標であるユニセフの子どもの保護の分野では、こういった異なる国々でいかに子どもの権利を守っていくかが鍵となるので、その観点からも非常に学びとなりました。

02. ロータリークラブの方々との日々

ロンドン地区奨学生ウェルカムパーティー



ロンドン地区の奨学生の皆さんと。中央が地区ガバナーのマイケルさん。

10月1日には、ロンドン地区内の奨学生のためにウェルカムパーティーを開催していただきました。美味しいお茶とお菓子を用意していただき、ゲームを交えながらロンドン地区の奨学生、ロータリアンの皆さんと交流を深めることができました。

ロンドン地区大会に参加！

シェークスピアの故郷、ストラットフォード・アポン・エイヴォンという街で開催された、ロンドン地区の地区大会に2泊3日(10月20日～22日)で参加してきました。地区大会では、奨学生からの挨拶を行った他、様々なトピックの講演が行われました。例えば、ロータリーが支援する海外の食糧支援を行う団体、イギリス国内で認知症ケアを行う団体等の活動が紹介されました。また、会場には多くのチャリティー団体がブースを設置し、各クラブと団体の方が今後の協力関係を築ける仕組みとなっていました。会議だけでなく、ホストクラブのロータリアンの方々と夕食を囲んだり、奨学生の皆さんと街を散策したりと、つながりを深めることができました。



大会の様子。



会議中の全体夕食にて。ホストクラブ会長のダニエルさん(左)と同じクラブに所属する奨学生のジェームズさん(右)と。



活動紹介ブース。



ホストクラブの方々が夕食会を開催してくれました。メニューはやはりフィッシュ&チップス！



奨学生の皆さんと街を散策。シェークスピアの生家などを訪れました。

03. 重点分野との関わり

難民の子どもに関する2つのセミナーに参加しました。

一つ目は、「ドイツの教育システムに難民の子どもをどう統合するか」というテーマで、職業訓練学校の活用の重要性と可能性が強調されました。

二つ目は、「難民の教育に対して国際社会がどう対応すべきか」というテーマで、シリア等紛争発生国の近隣諸国で、経済的に余裕のない国々が難民受け入れの大きな負担を強いられている状況の中、先進国を含めより責任を国際社会で分担していくべきではとの議論が交わされました。

11月は、学期末のエッセイ提出や論文の準備等で忙しくなりそうですが、しっかり学びを深めたいと思います。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。



ドイツから教授を招いて行われたセミナー。